

「YH 賞 2023」（第 3 回受賞作品）について

橋本知成 《Untitled》 2023 年制作

当館学芸員が「YH 賞」に相応しいと思われる若手作家数名を候補に挙げ、彼らの発表する作品を注視してきました。そんな中で、和歌山県立近代美術館において、「なつやすみの美術館 13 feat.橋本知成」（2023 年 7 月 11 日～9 月 10 日）が開催され、同館の現代美術コレクションとコラボレーションするかたちで、大きな個展ともいえる大規模な展示に挑戦した橋本知成氏（1990- ）の作品が目にとまりました。イサム・ノグチ、ドナルド・ジャッド、李禹煥など、蒼々たる現代美術作家らの作品と並んでも、決して負けない堂々たる存在感を放っていた橋本氏の作品は、新しい世代による陶の表現の可能性を感じさせる、新鮮さがありました。そこで、出品されていた作品の一つ《Untitled》（2023 年）を今年度の YH 賞候補とすることにしました。

橋本氏は、京都教育大学で彫刻を学んだ後、大学院より金沢美術工芸大学に進み、制作に陶（土・火）を用いる意味を真摯に問いながら、原初と洗練の融合する独自の立体造形に取り組んできました。フォルムはいたってシンプルなものが多く、1960～1970 年代の現代美術（ミニマルアートやもの派など）を彷彿とさせる造形ですが、土と火を用いることで、無機質ではない、力強い原初のエネルギーを感じさせます。土に入った亀裂も、表面に釉薬を施し、炭化焼成により金属質の窯変を加えた景色も、独特の表情をたたえて空間の中に屹立し、どこか洗練された美しさを醸し出しています。スケールの大きな作品にも果敢に挑戦し、大学院在学中から公募展で入賞を重ねるなど、若手の注目株の一人となっていました。

おそらく転機となったのは 2019 年、スペインのファッションブランドが主催する「LOEWE FOUNDATION Craft Prize 2019」のファイナリストの一人に選ばれたことでしょう。世界 100 ヶ国、2500 点を超える応募があり、名だたる作家たちが競い合う本展において、ファイナリスト 29 名に入ったインパクトは絶大で、イギリスのヴィクトリア&アルバート美術館に作品が収蔵されるなど、橋本氏の国際的な注目度も年々高まっています。

本作品は、陶のパーツとモルタルで作られたパーツからなり、二つを積み上げたかたちとなっています。建築素材として知られるモルタルの無機質な素材感が、有機的な陶のテクスチャーをより強調する組み合わせで、今では橋本氏の作品のトレードマークともなっています。また、彫刻と陶芸、二つの領域を押し広げていくような可能性も秘め、何より圧倒的な実在感と量塊を持つ骨太な陶芸作品が、若い世代からも発信できることを評価したいところです。2021 年度に創設し、40 歳未満の作家による「先鋭的な表現を追求する優れた陶芸作品」を掲げた「YH 賞（兵庫陶芸美術館）」の第 3 回受賞作品として相応しい作品であると認め、本作品を「YH 賞 2023」（第 3 回受賞作品）に決定しました。

橋本知成（はしもとともなり）氏について



Photo Gentoku Katakura

- 1990年 和歌山県湯浅町に生まれる
- 2012年 京都教育大学教育学部美術領域卒業
- 2015年 神戸ビエンナーレ 2015 現代陶芸コンペティション
準大賞
- 2016年 現在形の陶芸 萩大賞展IV 佳作
- 2017年 金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科博士課程（陶
磁分野）修了
- 2019年 第10回京畿道世界陶磁ビエンナーレ（利川世界陶磁
センター、韓国）
LOEWE FOUNDATION Craft Prize 2019 ファイナリ
スト（草月会館、東京）
京都府新鋭選抜展 2019 産経新聞社賞
- 2022年 第16回パラミタ陶芸大賞展（パラミタミュージアム、
三重）
- 2023年 なつやすみの美術館 13 feat.橋本知成（和歌山県立近
代美術館）
現在、滋賀県甲賀市にて制作

橋本知成氏コメント

この度は素晴らしい賞を頂戴し誠に光栄に思います。選出して下さった YH 氏、美術館の方々、制作活動を支えてくださる皆様に感謝申し上げます。今回の受賞作品は、近年取り組んでいる陶とモルタルを用いた作品です。展示台と作品の関係性から展開させてきたこのシリーズでは、それぞれ素材が持つ物質感 や、ものとしての佇まいについて考えています。今の社会において、これまで普通にしてきたことを普通に継続していくことの難しさを日々感じています。自身を取り巻く環境にどう向き合っていくのかという葛藤は今後も消えることはないのでしょうか。ものづくりを続けていくということはそういうことなのかもしれません。自身の作家活動の一場面として、今回この作品を美術館という場に納めていただけること、そして作品を作り続けられる環境に改めて感謝いたします。この度はありがとうございました。

【お問い合わせ先】 〒669-2135 兵庫県丹波篠山市今田町上立杭 4
兵庫陶芸美術館 学芸課 マルテル坂本牧子、村上ふみ
Tel 079-597-3965 (学芸課直通) Fax 079-597-3967